

創造力

関連づける力

共感力 観察力

発見力

イノベーションを創る力を実装

インクルーシブデザイン

ワークショップ

発想力

視野の拡大

発展させる力

問題定義力

事業構想力

商品企画力

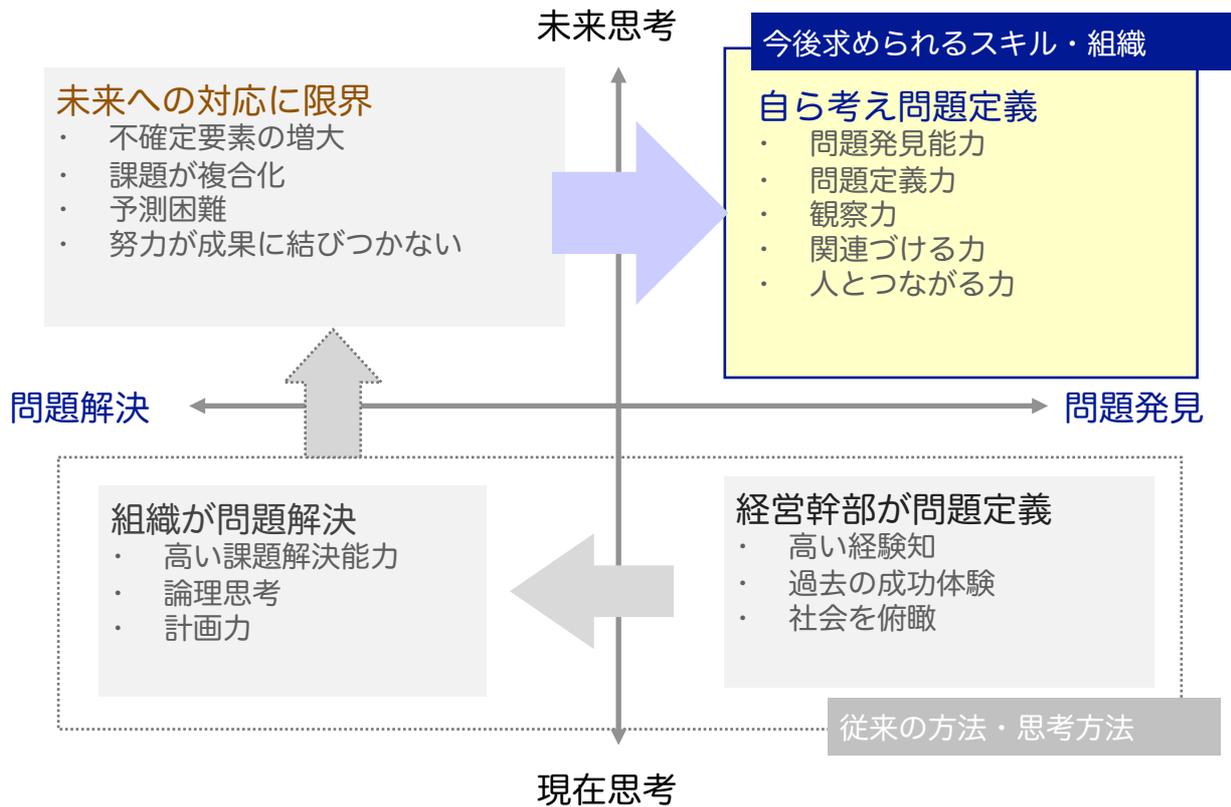
表現力

展開させる力

これからのビジネスに必要なもの

必要なのは問題定義力

課題が複合化し、未来予測が困難になっている現在、企業が課題解決能力だけで生き延びていくことが難しくなっています。この壁を突破していくためには、自らが考え、本質的な課題を発見し、問題定義をしっかりと行うことが必要です。従来からの課題解決能力に加えて、過去の常識や固定概念に囚われない発想を基に問題定義力（＝発想力＋発見力）を高めることが、真に価値ある商品・サービスの創造、新規事業のビジネスモデルの構築、多様なメンバーの組織マネジメントに繋がります。



***** こんな方へ *****

❖ 個人として

- スキルを向上させたい
 - 観察力・発見力
 - 発想力・創造力
 - 問題定義力
- 固定概念をゆさぶり多様な視点を得たい
- 視点を拡大したい（社内特定部門内→社内全体→社外）

❖ 新規事業の構想

- 発想から企画まで事業構想力を高めたい
- 新規事業を創出したい
- 社会課題から事業を創出したい

❖ 組織として

- 個の力を最大限発揮したい
- ”違い”を価値に変えられる組織にしたい
- イノベーションを起こせる組織にしたい



インクルーシブデザイン・ワークショップの特徴

Inclusive Design + Design Thinking

拡大した視野からの問題定義力+独創的な発想

発想・創造力を高めるデザイン思考のプロセスに、視野を拡大し、多様なユーザーを想起させ、ユーザー起点の創造を行うインクルーシブデザインを組み込みこんだオリジナルプログラム。イノベーションに最も重要な問題定義力を高め、論理思考を超えた独創的な発想を可能にします。



新たな視点からの発見と創造

：全プロセスをリードユーザ*と協働

- ✓ 普段見過ごしているニーズや社会課題を顕在化
- ✓ ”不便を楽しむ”といった新たな視点のアイデアを出せる
- ✓ 明確なユーザー起点の発想からの新たな価値創造

※ デザイン思考：スタンフォード大学で方法論化された手法で、観察・共感をベースに問題定義を行い、アイデアを拡散させて創造を行う。特に新規事業のように問題が明確にできていない時や問題が複雑な場合に特に有効。

※ インクルーシブデザイン：ロイヤルカレッジオブアートで方法論化された手法で、従来対象から排除されていたユーザー（極端ユーザー）と開発初期から協働していくことが特徴。普段見過ごしているニーズの発見と、誰にも使いやすい・利用しやすいことを実現可能にする。

株式会社 インクルーシブデザイン・ソリューションズ

❖ 私たちの目指すもの

多様性が生む“違い”を価値に変えること、具体的には、障がいの有無・年齢・性別・国籍など多様な個性を持った人々の視点から、固定概念をゆさぶり、視野を拡大し、超高齢社会にイノベーションを起こすとともに、障がい者や高齢者など多様な人々の活躍の場を創造しています。私たちは、この活動により日本の多様性と創造性の向上に貢献し、社会課題の解決と企業の競争力向上の実現に向けてチャレンジしています。

❖ 私たちの活動

持続可能な事業支援

人材育成・組織活性化

社会課題解決・地域活性化

- ✓ リードユーザ*と共に
- ✓ 身体制約・環境制約下からの豊かな発想
- ✓ バックカスティングで考える
- ✓ 社会課題解決と経済的合理性の両立

*リードユーザ：

- ・ 障がいがありながら自立しているため、多様なニーズを持つ。
- ・ 自己の障がいを客観視し、言語化できるため気づきを与えられる。
- ・ 超高齢化社会（近未来）に生じる課題を現在体現している。
- ・ リードユーザの行動観察により未来の社会課題がリアルに分かり、ニーズの先取りが可能。

企業・自治体の
グランドデザイン

企業・自治体向け研修

サービスのリ・デザイン

新規事業開発
新商品開発

セミナー・勉強会

ユニバーサルデザイン検証

街づくり支援

異業種・異部門交流会

高齢社会の
Webユーザビリティ
アクセシビリティ

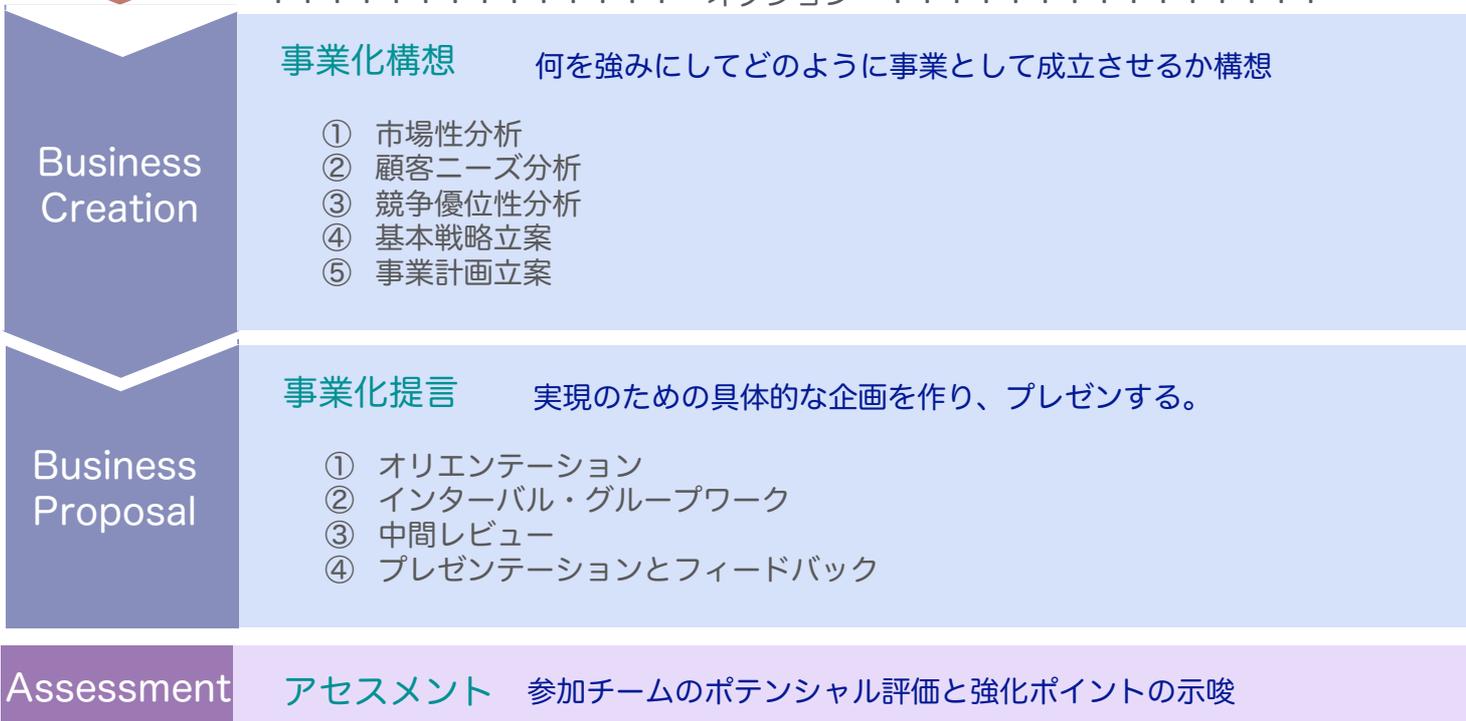
イノベーションのプロセスとワークショップ・プロトコル

Phase1 創造・発想のプロセス



***** オプション *****

Phase2 事業化のプロセス



ワークショップで得られるもの

課題

イノベーション

新規事業の構想ができない

問題定義が難しい
課題の本質がみえない
未来の予測が難しい

課題が複合化していて
対応が困難

組織の活性化

新しいことにチャレンジする
組織になっていない

自分で考える風土に
なっていない

努力が成果に結びつかない

個人のスキル

イノベーションの方法論が
分からない

発想が貧困

視野が狭い

ワークショップで得られるもの

最適なチームを組織

- ✓ 参加者の個性の診断（事前）
- ✓ 各自の強みと弱みを組み合わせてチームを編成

イノベーションのための方法論を学ぶ

- ✓ インクルーシブデザイン・デザイン思考
- ✓ 具体的な方法論とイノベーションの事例

リードユーザの行動を観察。普段見過ごしている不便・不自由などの”不”を発見し、視野を拡大

- ✓ 観察力
- ✓ 発見力

発見を社会課題として捉え直して問題定義を行うことで、本質的で独創的な解決を指向する

- ✓ 発見の抽象化能力
- ✓ 問題定義力

異分野のものを結びつけ、論理（＝誰もが同じ答えになる）を超える創造

- ✓ 発想力
- ✓ 関連付ける力

創造したものが他の人にわかる表現を創る

- ✓ 構想力
- ✓ 表現力

他の人の創造物の価値を捉え、さらに発展させる

- ✓ 理解力
- ✓ 評価力
- ✓ 発展力

事業化に必要な要素を見極める

- ✓ BMC*を活用した事業化のポイントの見出し方
- ✓ 必要なリソースの見極め
- ✓ 実現プロセスの作成

*BMC:ビジネスモデルキャンパス。ビジネスモデルの確立に必要な9つの要素を可視化したもの

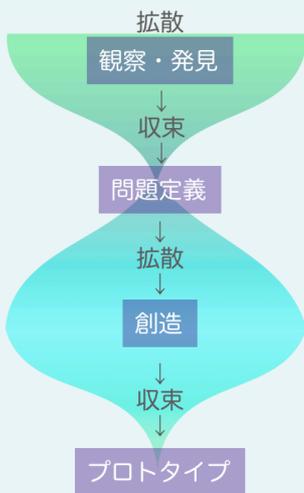
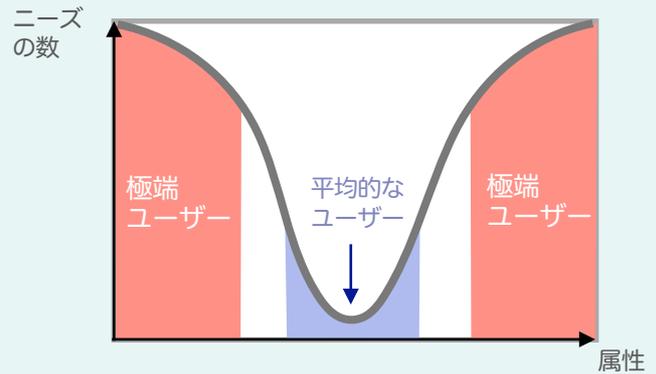
イノベティブな組織へのディレクション

- ✓ 強み・弱みの把握
- ✓ チームを進化させるために必要なポイント

創造性を豊かにし、高い価値を産むために

リードユーザが創造価値を高める

リードユーザは、未来の高齢化社会の課題を体現し、さらに、平均的なユーザーからは見出せない多くのニーズを顕在化してくれる極端ユーザーでもあります。この発見から発想していくことで、より広い視野から課題を捉えることが可能となり、より高い価値創造へと繋がります。

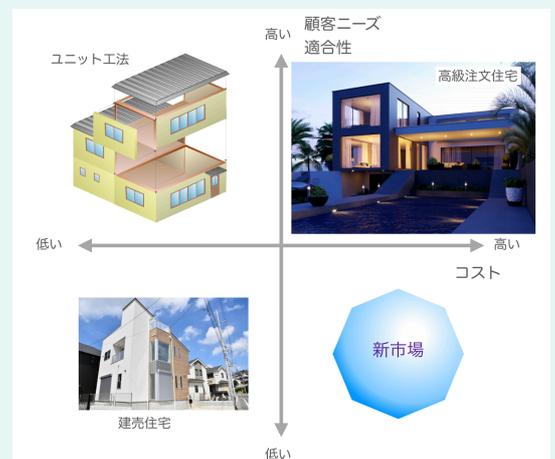


無限の創造へ

観察・発見からプロトタイピングまでのワークショップのプロセスで、拡散と収束を繰り返しながら、異分野の要素を関連づけて発想していくことで、アイデアを幾何級数的に生み出すことが可能になります。さらに、リードユーザとの協働で視野が拡大し、豊かな創造に繋がります。

アイデアの独自性の把握

例えば、相反する二軸を考え、案出したアイデアおよび競合と考えられるものをプロットします。これによって、アイデアのポジションが分かり、強み・弱みが直感的に理解できるようになります。同時にアイデア実現に向けての道筋も立てられるようになります。



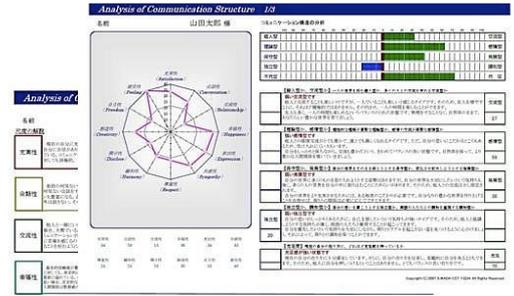
KP パートナー Key Partners	KA 主要活動 Key Activities	VP 価値提案 Value Proposition	CR 顧客との関係 Customer Relationship	CS 顧客セグメント Customer Segments
	KR リソース Key Resources		CH チャンネル Channels	
CS コスト構造 Cost Structure		RS 収益の流れ Revenue Structure		

アイデアから事業を構想

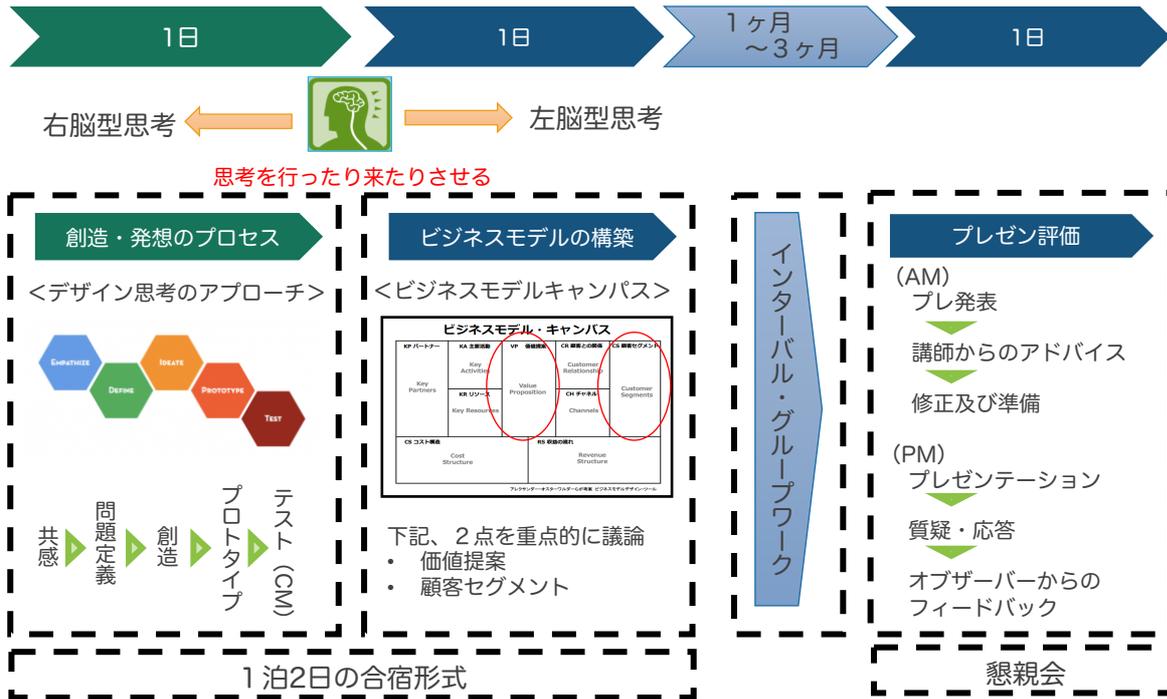
アイデアの実現に向け、ビジネスモデルの確立に必要な9つの要素をビジネスモデルキャンパスによって可視化します。これによって強みを生かせる部分や、不足するリソースなどを明確にし、具体的な企画に落とし込みます。

プログラム一例

「多様性分析」から適正なチーム作りを
コミュニケーションの課題や対策、他者との人間関係における
問題点をスッキリ解消！！
自分とは異なる相手の考えや気持ち、価値観や行動が理解でき
ようになり、対人関係のストレスが大きく軽減されます。
相互の凹凸(強み・弱み)を保管し合うチーム作りから、プロ
ジェクトの最大限の成果を目指します。
インクルーシブデザインワークショップの事前に行います。



「イノベーションワークショップ」「発想からビジネスへ」を生み出す体験 3ヶ月間 概要



「地方創生とビジネス研修」:プロジェクトの進め方例

